



介護老人保健施設 アゼリア

# 安全、安心な療養環境を目指して

～転倒・転落アセスメントシートとセンサーベッドの運用～

医療法人社団 珠泉会  
介護老人保健施設 アゼリア  
介護福祉士 施設R M 渡邊 徹

協力：パラマウントベッド株式会社

16-第3-06-1

# 東京都昭島市 介護老人保健施設アゼリア

一般棟 106床 専門棟 40床 計 146床



# 目的

・離床センサ内蔵ベッド、転倒・転落アセスメントスコアシート  
の運用ルール導入によって、リスク評価基準・対策基準  
の標準化と、転倒・転落事故の削減を目指す。

平成26年度 センサーベッド（16台）導入



平成27年度 運用ルール作成

平成28年度 運用ルール評価

平成29年度 運用ルール改善

昨年度発表

**今年度発表**

# 運用ルール紹介①

## 転倒・転落アセスメントシート、離床センサ選定フロー

病院用のアセスメントシートを老健アゼリアのご利用者様の状態に合うように修正  
離床センサの使用者を選定するチェックリストを追加

転倒・転落アセスメントシート		利用者名:	
		測定日 ( / )	記録者 ( )
転倒リスク 分類	アセスメントチェック項目	点数	
歩行・移乗 能力の低下	1. 過去に一度でも転倒されたことや骨折歴がある。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
	2. 筋力の低下があり、歩行状態が不安定である。 (すり足・小刻み歩行・前傾姿勢・突進歩行)	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
	3. 麻痺、しびれ、骨・関節の異常(拘縮・変形など)がある。	重症3点・軽度1点・ない0点	
	4. 座位保持に見守り以上の介助が必要である。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
	5. 移乗動作に見守り以上の介助が必要である。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
	6. 歩行補助具を使用している。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
	7. 排泄動作やスポンジの上げ下げに見守り以上の介助が必要である。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
認知症による 転倒リスク	8. 認知症、又は判断力や理解力の低下が認められる。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
聴覚障害	9. 視力・聴力障害がある。(周囲が見えにくい、音が聞こえない状態)	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
睡眠状態	10. 夜間不眠である。	ほぼ毎日3点・時々1点・良眠0点	
夜間排泄	11. 夜間トイレへの起き出しが頻回である。	3回以上3点・2回以下1点・ない0点	
コミュニケーション 能力	12. お互いのコミュニケーションが図れない事がある。	ある3点・どちらともいえない1点・ない0点	
行動障害	13. 徘徊・不潔行為・異食・暴言暴力・大声・昼夜逆転・ 介護拒否・危害予兆	該当があれば3点	
転倒動作	14. 起立動作時見守り以上の介助が必要なお利用者で車椅子や椅子から 立ち上がる行為がある。	毎回3点・時々1点・いらい0点	
	15. 移乗時、車椅子のブレーキの使用忘れがある。	時々忘れ3点・どちらでもない1点・いらい0点	
	16. 鞆の履き忘れがある。	毎回3点・時々1点・いらい0点	
	17. トイレ使用後等、必要時NSコールが使用出来ない。	毎回3点・時々1点・いらい0点	
転倒・転落による リスク	18. ①睡眠剤・降圧剤・向精神薬・下剤の服用。 ②パーキンソンや高血圧症等転倒に繋がる疾患や症状がある。	該当があれば4点・どちらともいえない1点・ない0点	
転倒リスク評価	リスク(4.0点以上)・中リスク(2.0点以上)・低リスク(1.9点以下)		
◎センサ選定フロー			
	✓ 自立での起き上がりができる (はい:○ はいえ:×)		
	✓ 座位保持・移乗・移動に介助が必要 (はい:○ はいえ:×)		
	✓ NCを押さずに自己にて動いてしまう (はい:○ はいえ:×)		
<b>離床センサーを使用しよう!!</b>			
センサ選定フローによる判定結果 (使用:○ 不使用:×)			
実際のセンサ使用の有無 (使用:○ 不使用:×)			
判定結果と異なる場合の 理由記入欄			

### <アセスメント 質問項目>

- 過去に一度でも転倒されたことや骨折歴がある...  
ある3点・どちらともいえない1点・ない0点
- 筋力の低下があり、歩行状態が不安定である...

### <センサ選定フロー>

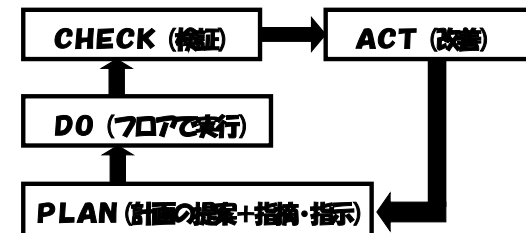
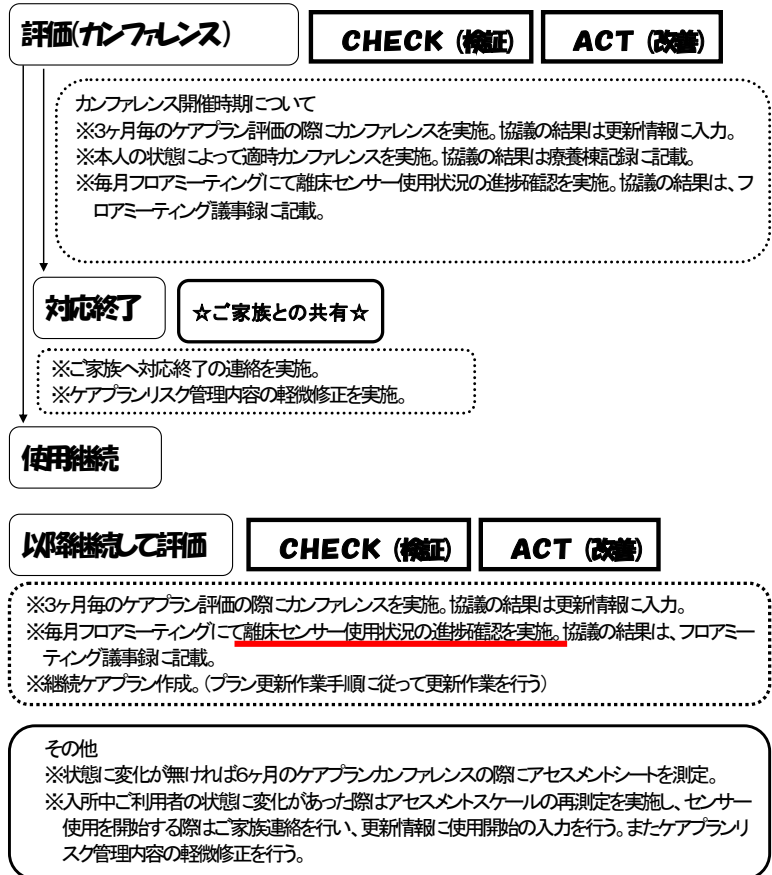
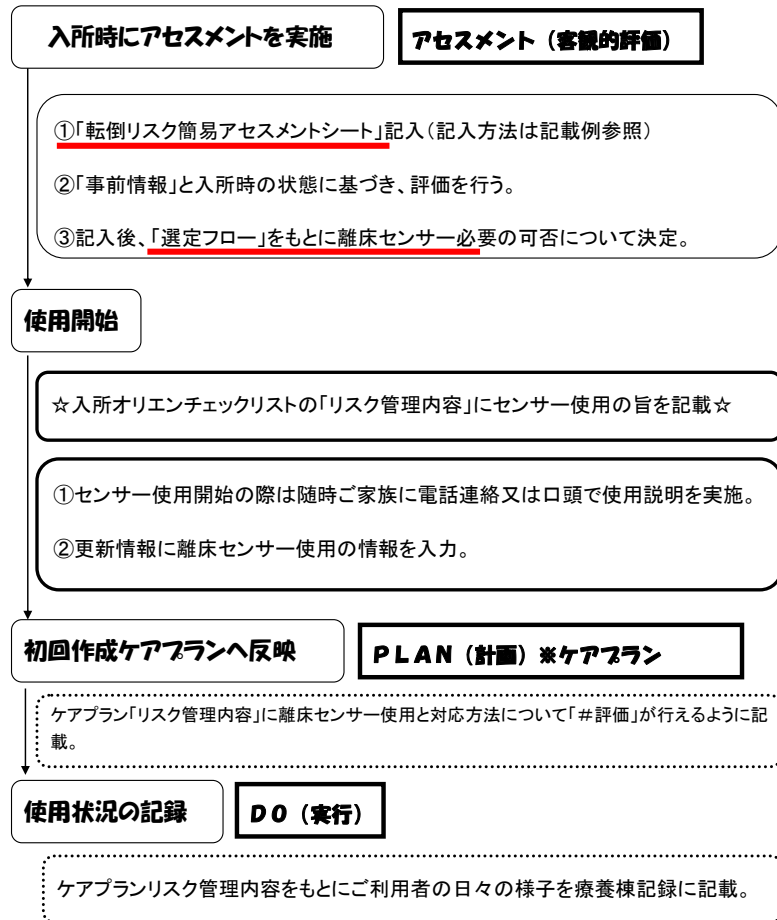
- 自立での起き上がりができる  
↓ 「はい」
  - 座位保持・移乗・移動に介助が必要  
↓ 「はい」
  - NCを押さずに自己にて動いてしまう  
↓ 「はい」
- 離床センサを使用しよう!



# 運用ルール紹介②ガイドラインの構築

アセスメントシートなどの運用ガイドラインを作成。使用タイミングの標準化し、PDCAサイクルを実現。

## ☆転倒リスク簡易アセスメントシート 運用ガイドライン☆



# 今年度研究 運用ルールの評価方法

運用ガイドラインに沿った使用状況と、その運用効果について評価を実施。

評価結果を元に、運用ルールの改善を行う。

## ①使用状況の評価

アセスメントシート 使用率

センサ選定フロー 推奨一致率

## ②運用効果の評価

スタッフアンケート

転倒・転落事故発生件数

# 評価結果① 使用状況

## アセスメントシート 使用率


H28年度 2F 約80% 3F 約50%

改善方法  測定もれのある職員への再説明

## センサ選定フロー 推奨一致率

(フロー推奨→スタッフによる使用判断)

H28年度 2F 約90% 3F 約70%

改善方法  評価に影響の少ない項目を削減  
使い勝手の向上

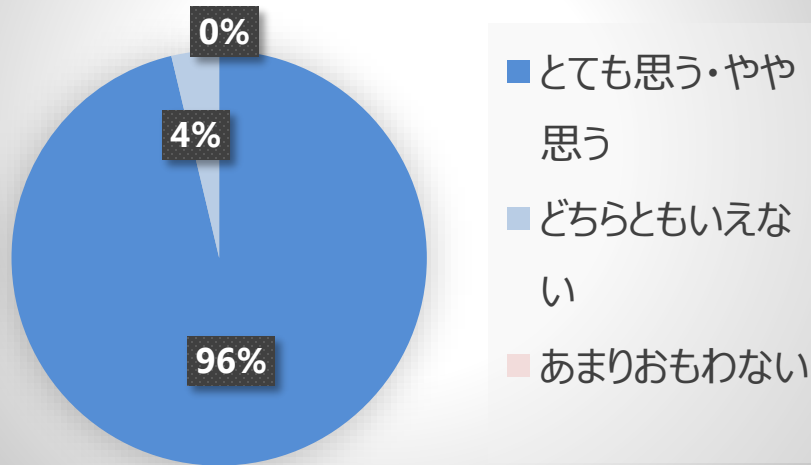
# 評価結果② 運用効果<職員アンケート>

○対象人数 施設職員 29名 回収率 100%

○H29年3月にアンケート実施

## センサーベッドは有効か

肯定：96%



### 【肯定意見】

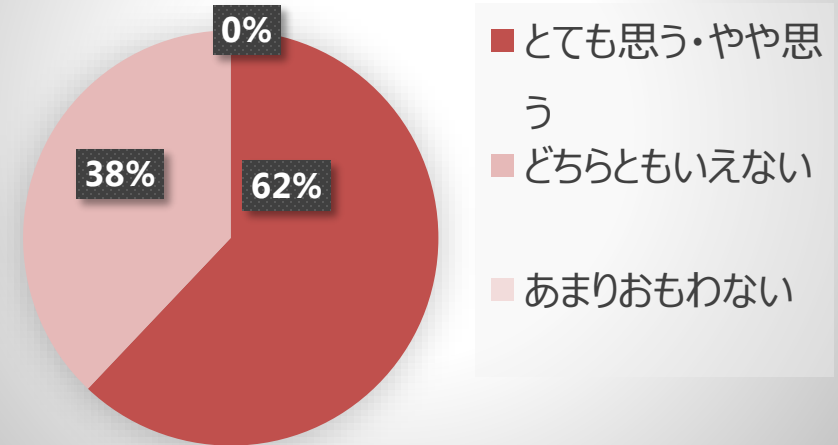
- ✓ 適切なタイミングで利用者の対応が行えた（18名）
- ✓ 従来のセンサーと比較して安全である（7名）

### 【否定意見】

- ✓ 誤報が多い（2名）

## アセスメントシートは有効か

肯定：62%



### 【肯定意見】

- ✓ 危険性の高い利用者の抽出と重点的な対応（11名）
- ✓ リスクに対する感受性が上がった（9名）

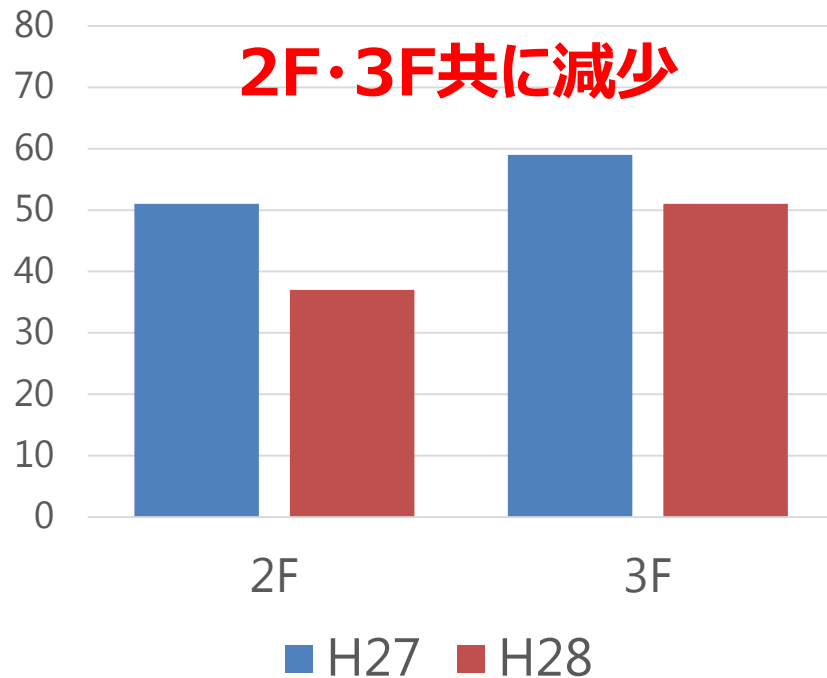
### 【否定意見】

- ✓ 有効な対策実施まで活かしきれない（5名）
- ✓ 測定作業が大変（10名）

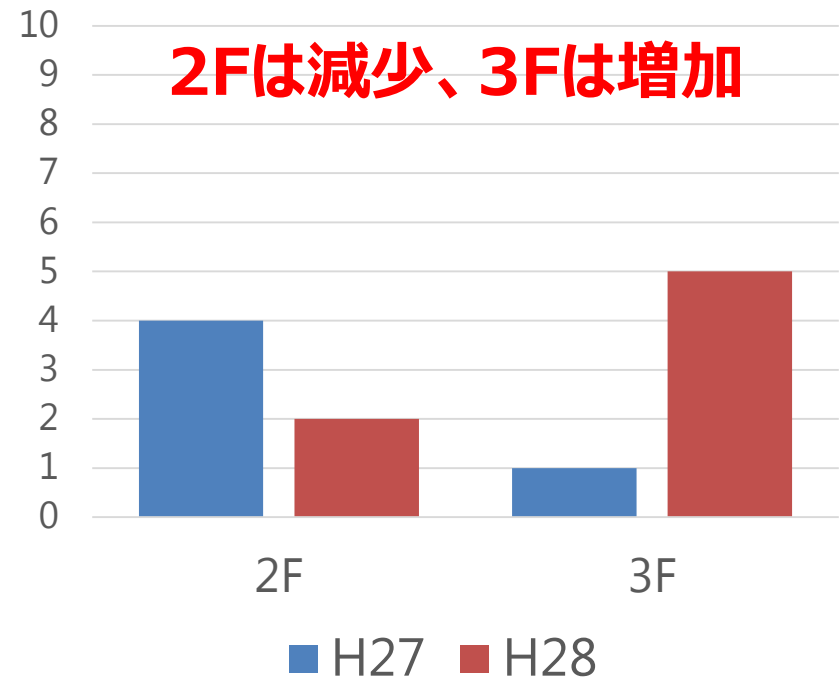


# 評価結果②運用効果 <重傷事故発生件数>

## 転倒・転落事故発生件数



## 重傷事故件数



## <考察>

2Fと3Fの違いとしては、アンケートにおいて2 Fはリスクに対する感受性が上がったと回答した人が多く、3 Fはその回答が少なかったことが挙げられる。

## ＜結果考察＞

- ✓ センサーベッドとアセスメントシートの運用によって、重傷事故の減少につながった可能性が示唆された。
- ✓ 職員やフロアごとにアセスメントの重要性の認識やリスクの感受性にばらつきがあった。
- ✓ センサ選定フローの使い勝手に改善の必要があった。

## ＜今後の活動＞

- ✓ 職員への教育・周知の再徹底
- ✓ シートの修正（第四版を来年から運用開始予定）
- ✓ より安全、安心につながる様な環境整備の継続

※アセスメントシートをご覧になりたい方は、発表後にお声がけください。

ご清聴ありがとうございました。